

鱗数による天然アユと放流アユの判別

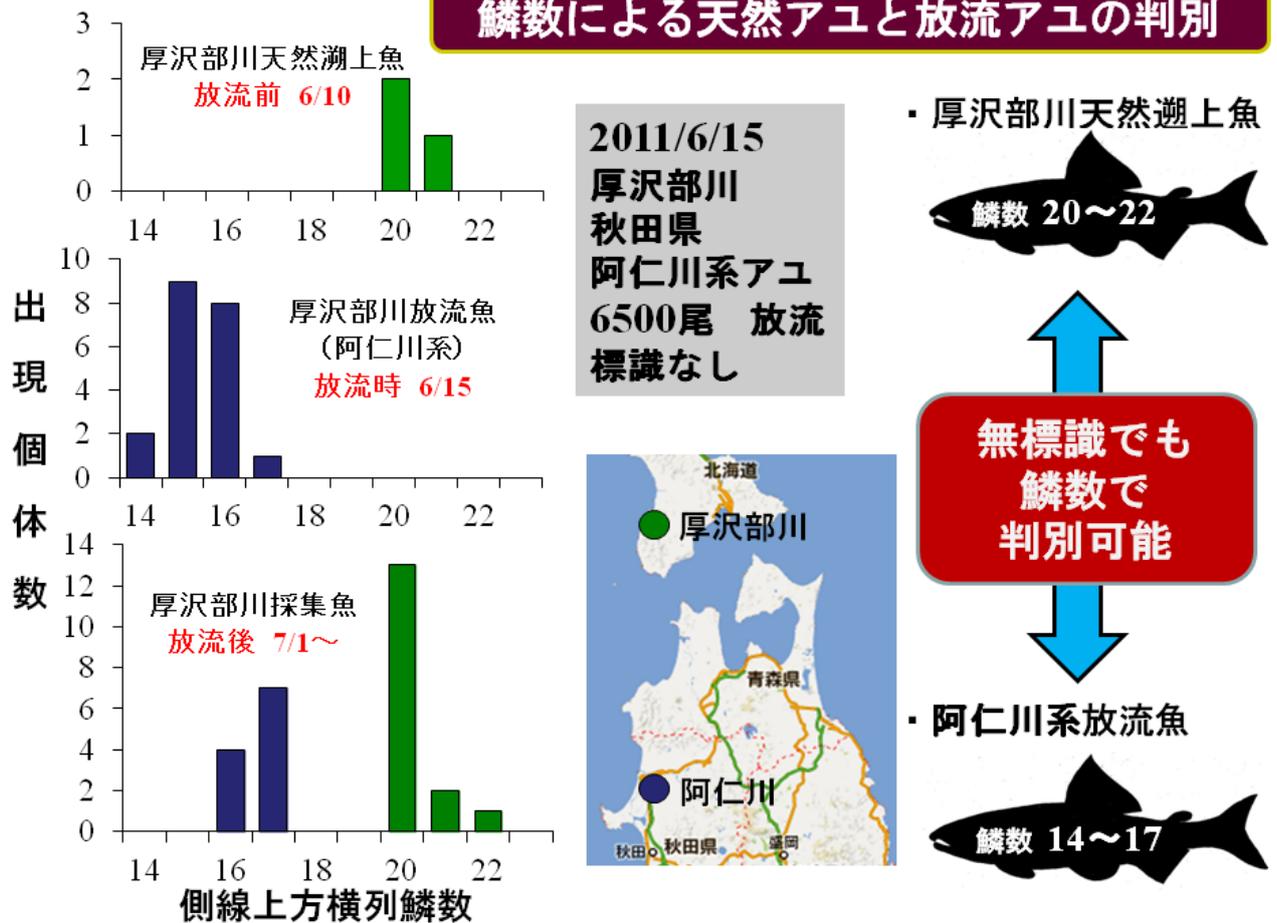


図4 側線上方横列鱗数による天然アユと放流アユの判別 放流前に鱗を計数することにより判別が可能であった

2011年、檜山管内の厚沢部川に秋田県阿仁川系のアユ約6500尾が放流されました。この魚の由来は阿仁川の天然アユから採卵しその後養魚地で養成されたもの（継代1代：F1）とそれより1世代前に天然魚から採卵したものの次の世代（継代2代：F2）です。この時の調査結果を図4に示します。放流に先立ち、厚沢部川で天然遡上したアユの採捕を行い、得られた標本の鱗を計数しました。天然アユの鱗数は20~21枚でした。その後、放流時に放流アユの鱗数を計数したところ14~17枚の範囲にありました。放流後厚沢部川で漁獲されたアユの鱗数を調べたところ、16~17枚と20~22枚の二つの群に分かれる結果となり、前者は放流アユ、後者は天然アユと考えられました。

このように2011年の厚沢部川のケースでは天然アユと放流アユを鱗数によって区別することが可能でした。ただし前述したようにアユの鱗数は地域の系群や生育時の環境によって変化します。北海道の他地域、または放流アユの産地や来歴によって天然アユと放流アユの鱗数は一部重複する場合もあり、その場合はこの方法に頼ることはできません。現在、さけます内水試では北海道内でアユを放流しているいくつかの河川で放流の効果について調査を行っていますが、河川により全数標識法と鱗による判別法を使い分けています。漁獲物や産卵場での放流アユの出現度合について今後3年間データを蓄積し、各河川での放流の効果について検証する予定です。今後の調査結果についてご期待ください。